

中南米「建物耐震技術の向上・普及」 研修コースの拡充について

(問い合わせ)

国際地震工学センター
上席研究員 犬飼 瑞郎

Tel 029-864-6663

E-mail inkm@kenken.go.jp



中南米では多くの地震被害が発生

2001年エルサルバドル地震(死者数 : 1,100人超)

2007年ペルー地震 (" 510人超)

2010年ハイチ地震 (" 222,000人超)

2010年チリ地震 (" 540人超)



日本の復興支援策

JICAプロジェクト

((独)国際協力機構)がスタート

TAISHIN
VIVIENDA SISMO-RESISTENTE

「耐震普及住宅の建築普及
技術改善プロジェクト」(2003
年12月から2期10年間)、等



2001年エルサルバドル地震時の地すべり

中南米「建物耐震技術の向上・普及」 研修コースとは？(1)

過去、中南米では多くの地震が発生し、**即戦力的な指導的人材の育成が急務。**



しかしながら、**自国にその育成ノウハウがない。**

また、**英語を普段使っておらず、現地技術者からは短期でコンパクトな研修への要望が多い。**(指導的構造技術者、中核的建築行政担当者)



そこで

中南米「建物耐震技術の向上・普及」 研修コースとは？(2)

建築研究所とJICAが連携して日本と エルサルバドルにて研修を実施

H26年開始。H28までの3年間。

5月中旬頃 ～7月中旬(本邦研修)

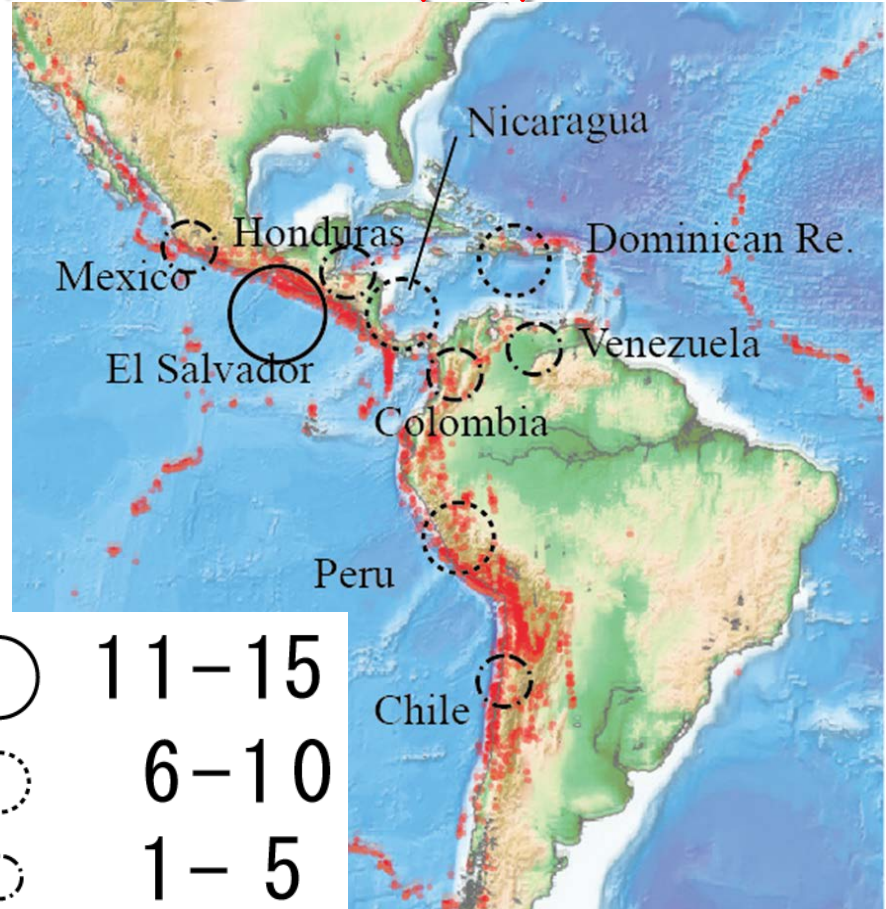
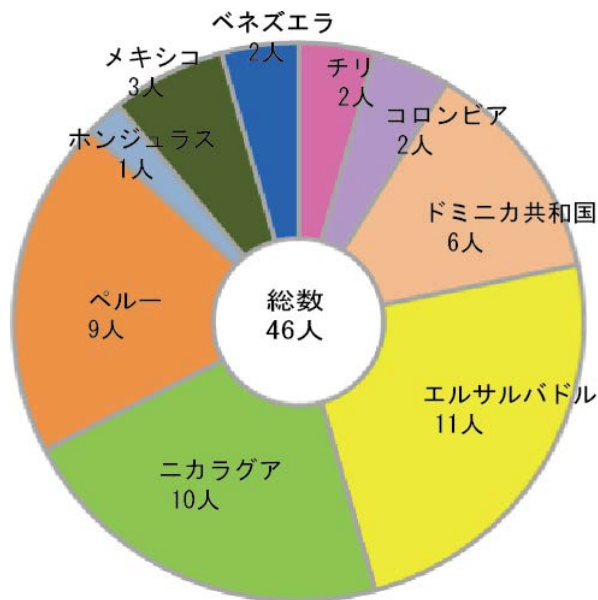
7月中旬 ～7月下旬(在外研修。場所は
エルサルバドル。)

耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を講義・構造
実験・現場見学により習得。講義はスペイン語にて実施

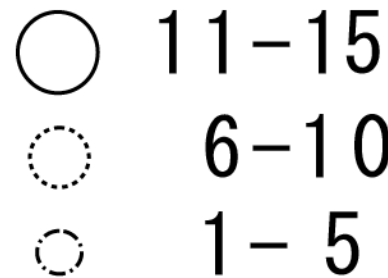


(効果) 自国での耐震建築の普及、及び耐震建築技術者の育成により、将来、中南米地域での地震発生時の被害の軽減を目指します。

中南米「建物耐震技術の向上・普及」 研修コースとは？(3)



H26: 4ヶ国 14名
 H27: 6ヶ国 16名
 H28: 8ヶ国 16名
 と毎年国数拡大



● : 地震の震源 (米国地質調査所, 2000~2009, $M \geq 5.0$)
 ○ : 研修修了生の数 (2016年9月末現在、9カ国から46名)

研修コースの概要

カリキュラム：

- ・地盤工学、構造工学
- ・各種耐震構造論
(鉄筋コンクリート構造、鋼構造、組積造、等)
- ・最新技術 (免震・制震)
- ・自国の関心・課題に立脚した調査研究
- ・行政官と技術者を合わせて募集、技術習得、相互理解、人脈形成をはかります



自国の建物耐震技術の向上・普及



H28 エルサルバドルでの在外研修 (傾斜台での組積造構造実験)

研修風景, H26本邦研修



開講式



講義後

建築研究所、茨城県つくば市

中南米「建物耐震技術の向上・普及」 研修コース、これから

- 研修中に作成された業務改善提案(アクションプラン)に基づく活発な帰国後の活動事例が報告され実績が高く評価されています。



これをうけて

【期間延長】

H29～H31の3年間の期間延長決定(引き続きスペイン語)。

【コースの増設】

これまでの技術者コース(本邦約8週間(座学・視察)＋在外2週間(構造実験))に加え、**行政官コース(本邦約4週間(座学・視察))**を新設。

の2本立てで、H29年度実施に向けて、現在準備を進めています。⁷